

# グラフで見る関西経済(2023年1月)

2023年1月27日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

# 今月の景気判断 ～持ち直しの動きが一服

## 【今月のポイント】

- 関西経済は、持ち直しの動きが一服している。
- 生産は、持ち直しの動きが一服。電子部品デバイスは減少基調、これまで増加基調であった汎用・生産用・業務用機械はこのところ足踏み。
- 実質輸出も足下で減少が続き、水準を下げてきている。
- 個人消費は、コロナ感染の行方、物価上昇などが懸念されるが、ウィズコロナの進展(定着)により持ち直しの動きがみられる。
- 百貨店免税店売上は、入国規制の緩和もあってピーク時の半分強までもどってきている。

項目	現状
景気全般	持ち直しの動きが一服(↓)
生産	持ち直しの動きが一服(↓)
輸出	持ち直しの動きが一服(↓)
設備投資	持ち直しの動きがみられる
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直しの動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	横ばい圏で推移
公共投資	請負金額は弱含み(↓)

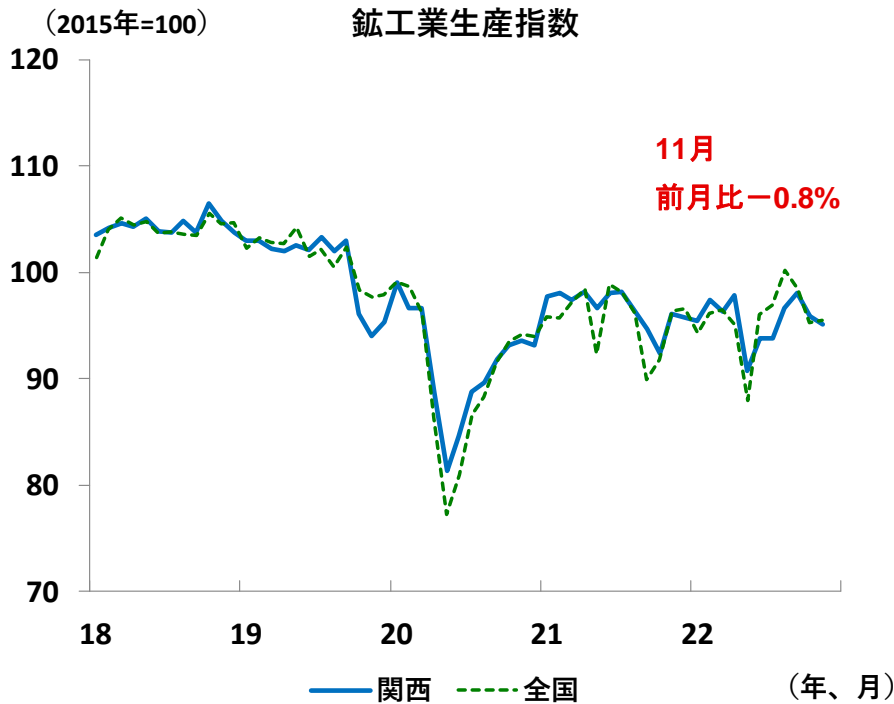
注: ( )内は前月からの変化の方向

景気全般、生産、輸出は「持ち直しの動きがみられる」から下方修正(↓)

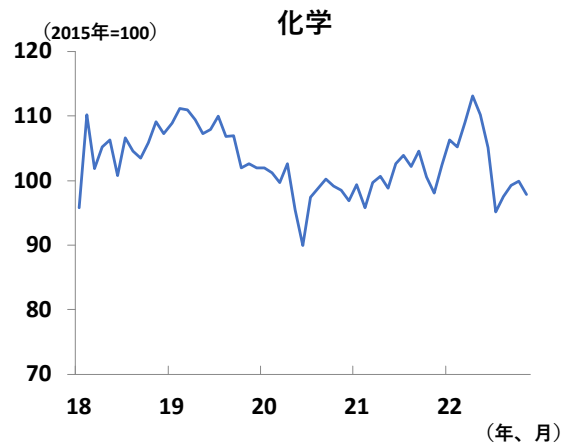
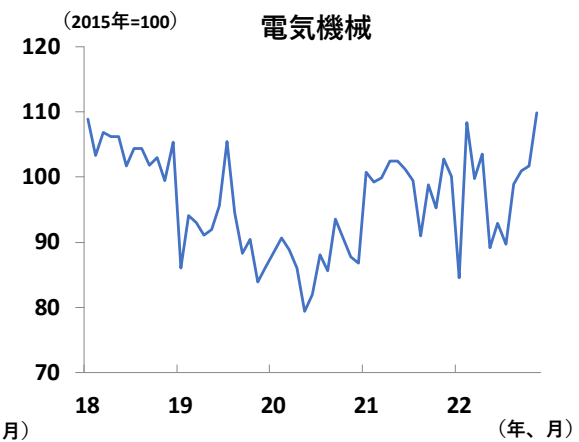
公共投資は「横ばい圏で推移」から下方修正(↓)

# 生産

11月の鉱工業生産(関西)は前月比-0.8%と2ヵ月連続で減少、持ち直しの動きが一服している。業種別では、電子部品デバイス、化学、汎用・生産用・業務用機械などが減少した。

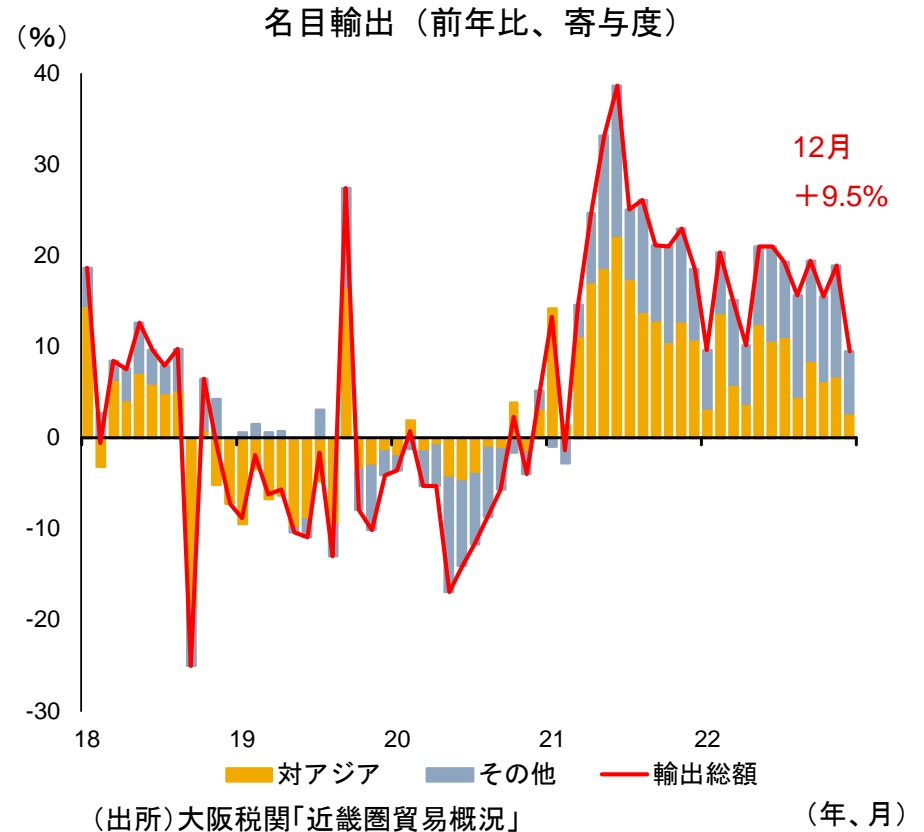
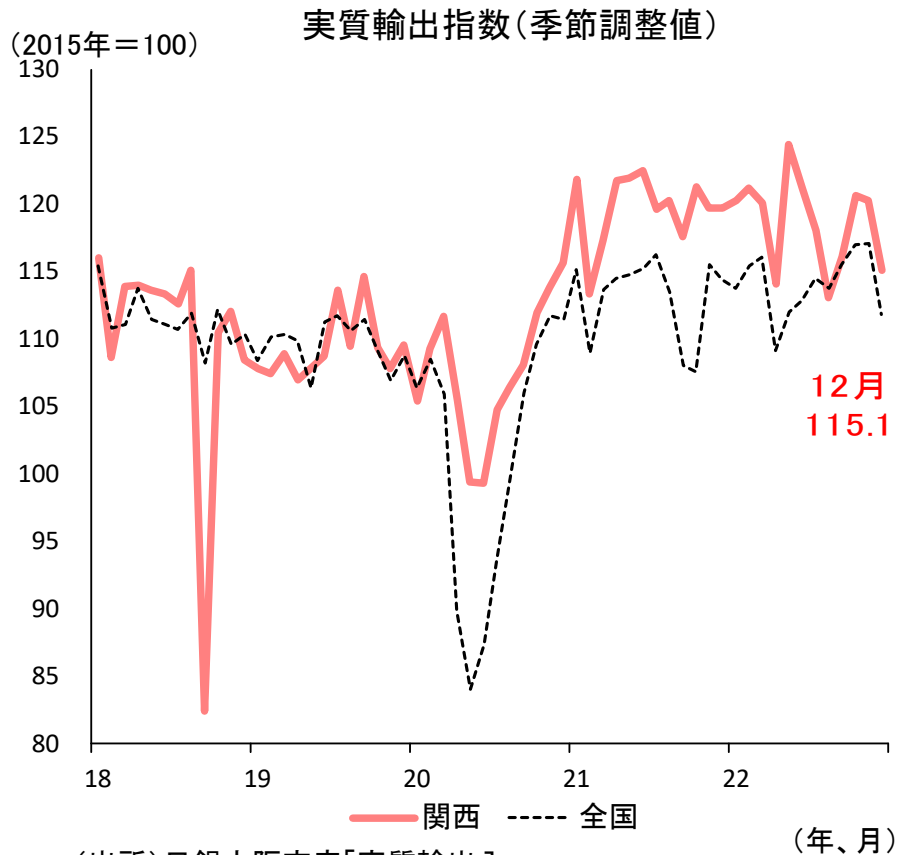


(出所) 経済産業省「鉱工業生産動向」



# 輸出

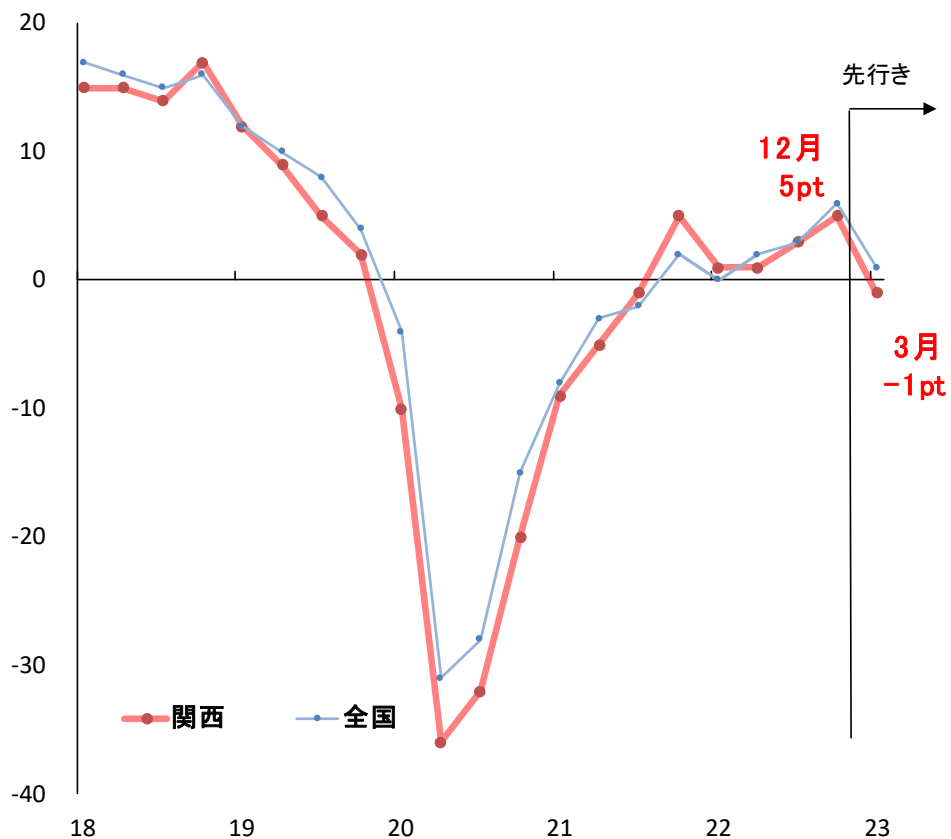
輸出は持ち直しの動きが一服。12月の実質輸出(季節調整値)は前月比-4.3%と2ヵ月連続で低下した。12月の名目輸出額は、前年比で+9.5%と22ヵ月連続で増加したが、伸び率は縮小。地域別ではアジア、米国向けは増加したが、EU向けが減少。品目別では鉱物性燃料、映像機器、建設用・鉱山用機械などが増加した。



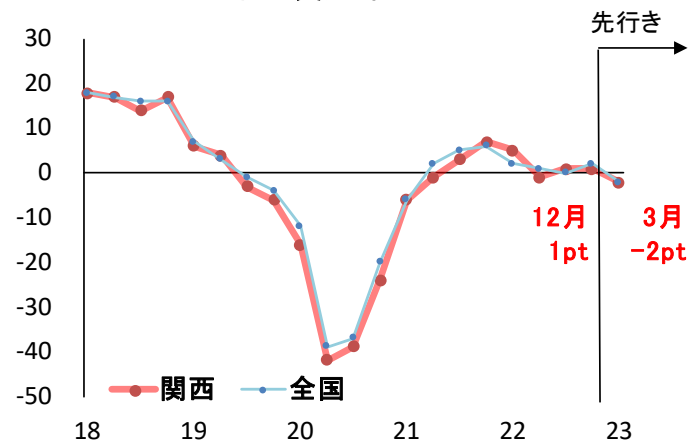
# 企業景況感(日銀短観) ※以下は12/14公表の12月調査。3月調査は4/3公表予定

日銀短観12月調査の業況判断DIは、全産業で+5ptと9月調査から改善。製造業は横ばい、非製造業は改善した。先行き(3月)については、製造業、非製造業ともに悪化が見込まれている。

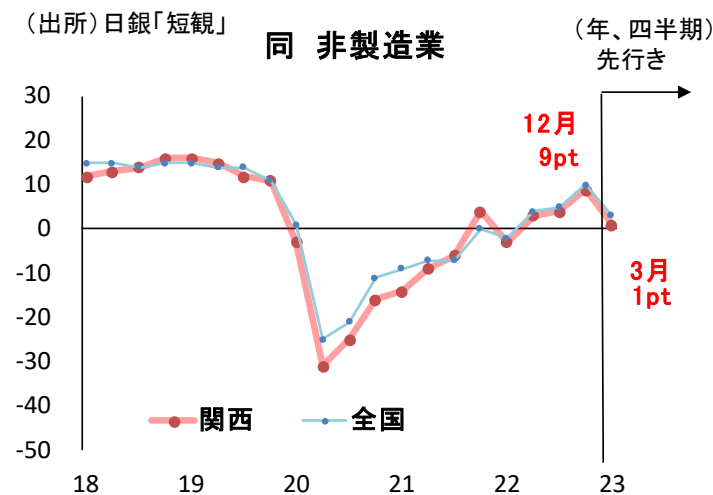
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業



同 非製造業



(出所)日銀「短観」

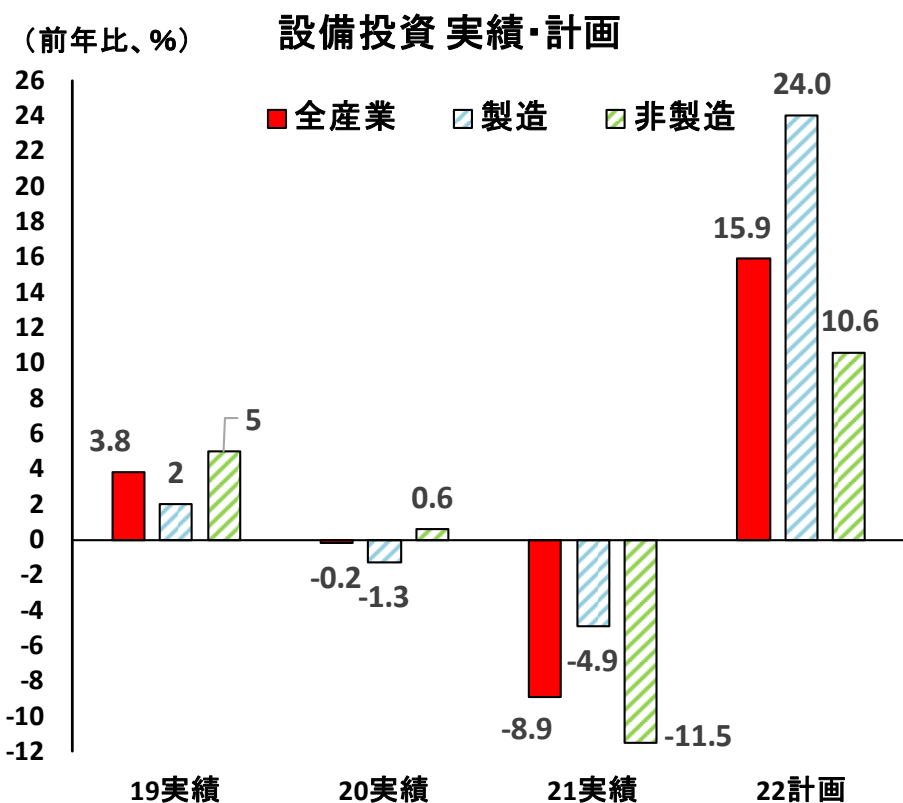
(年、四半期)

(出所)日銀「短観」

(年、四半期)

# 設備投資 ※以下は12/14公表の12月調査。3月調査は4/3公表予定

日銀短観12月調査によると、22年度の設備投資計画は前年比+15.9%と9月調査から下方修正となったが引き続き増加を見込んでおり、持ち直しの動きがみられる。業種別の計画をみると、不動産が前年度比で大幅減となる一方、石油・石炭製品、鉄鋼、金属製品、建設、卸売などが大幅増を見込んでいる。



(出所)日銀大阪支店「短観」

(注)設備投資は、含む土地投資額

(年度)

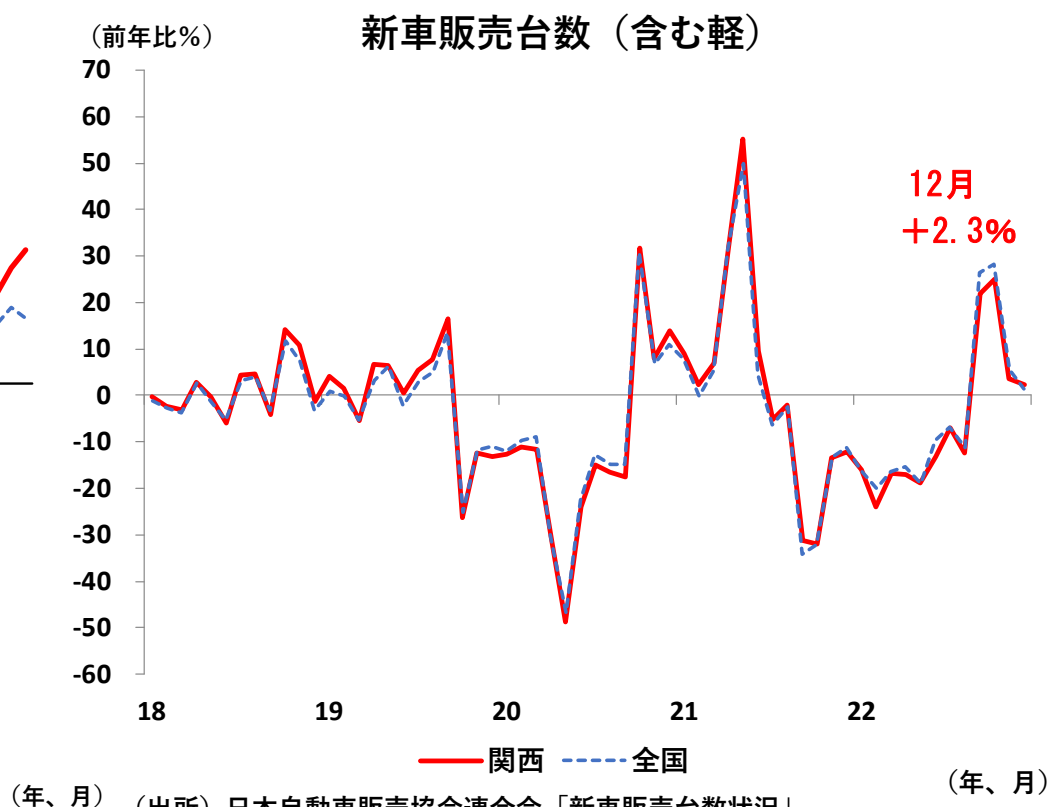
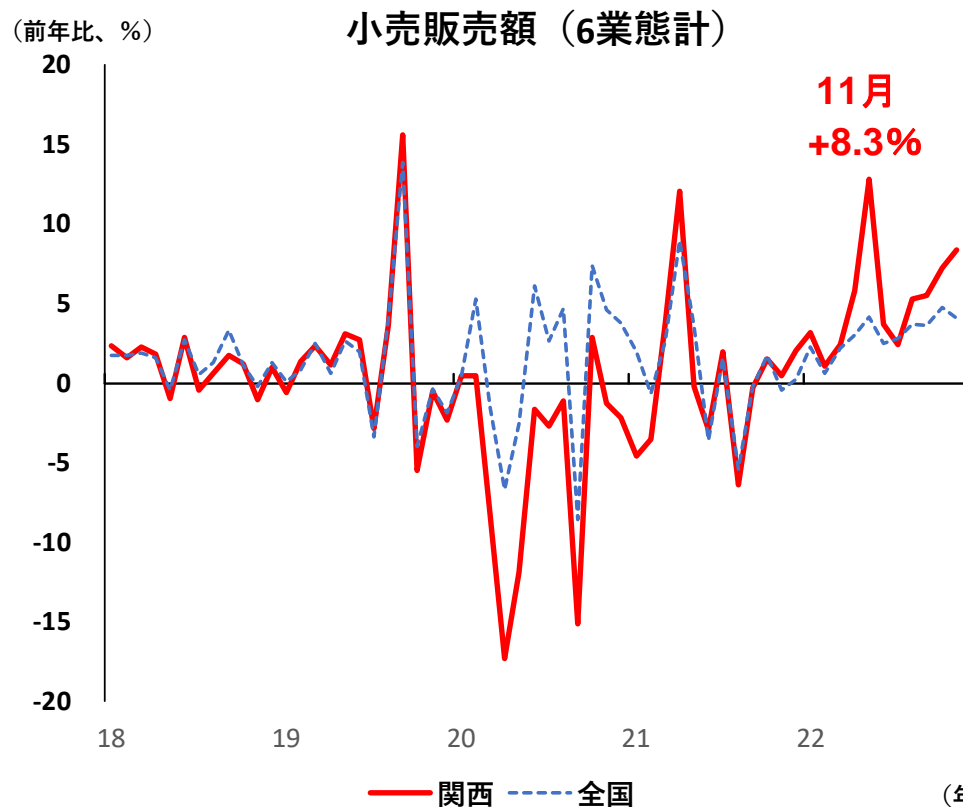
設備投資額(前年比%)

	21年度実績	22年度計画	
		今回調査 (前回調査との差異)	前回調査
全産業	-8.9	15.9 ( -1.7 )	17.6
製造業	-4.9	24.0 ( -1.0 )	25.0
非製造業	-11.5	10.6 ( -2.1 )	12.7

## 個人消費(小売売上、自動車販売)

11月の小売販売額は前年比+8.3%と14ヵ月連続で増加した。先行きは、物価上昇、コロナ感染の行方などが懸念されるが、ウィズコロナの進展(定着)により持ち直しの動きが続くとみられる。

12月の新車販売は、前年比+2.3%の41,904台と4ヵ月連続で増加となった。半導体調達難で自動車生産の停滞が続いており、12月の水準としては高いものではない。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

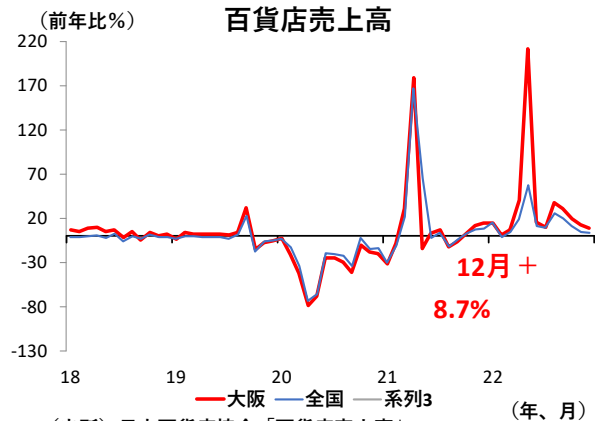
(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

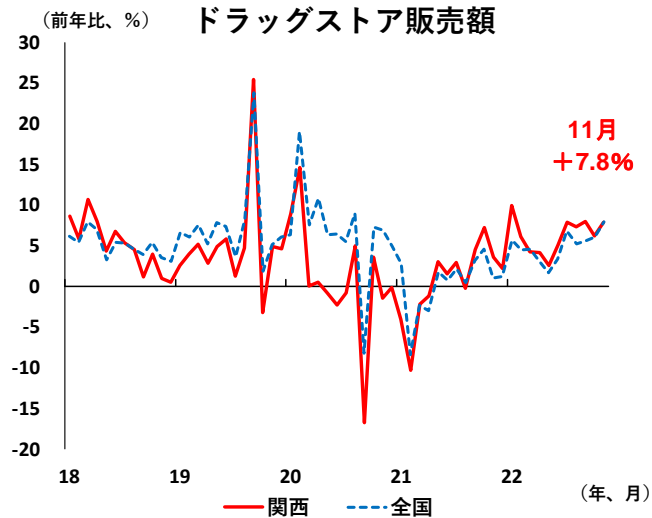
# 個人消費(業態別)

12月の百貨店売上(大阪)は前年比+8.7%と15ヵ月連続で増加した。京阪神百貨店免税売上は、入国制限の緩和もあって水準を上げてきており、12月は818.3とコロナ前のピーク(19年4月の1419.6)の半分強まで戻している。

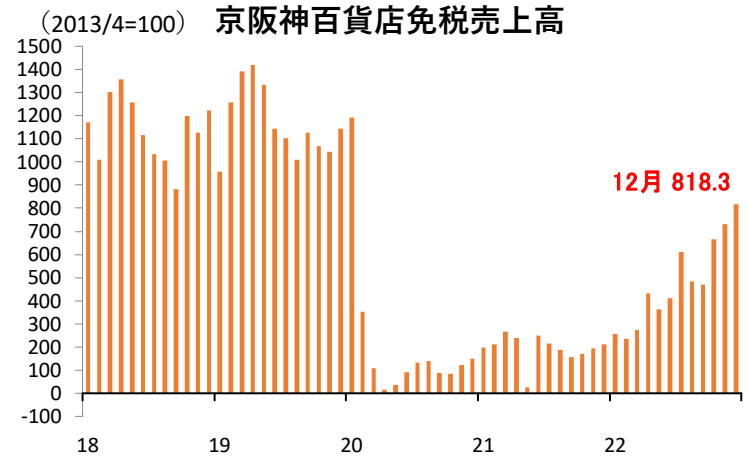


(出所) 日本百貨店協会「百貨店売上高」

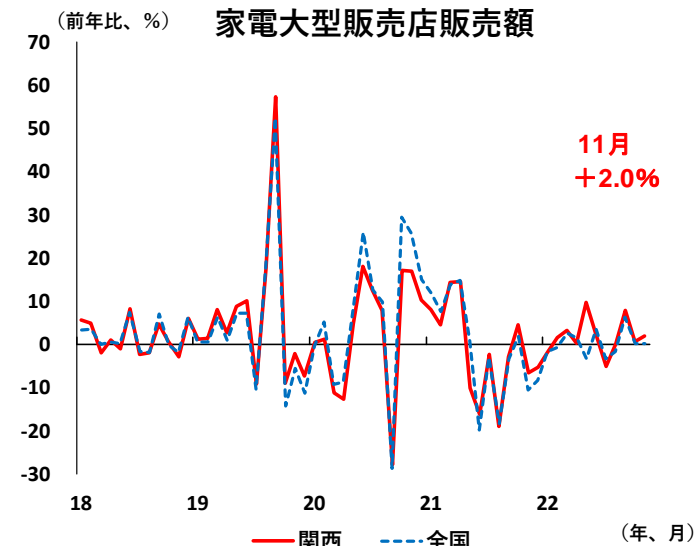
(注) 店舗調整後前年比



(出所) 経済産業省「商業動態統計」



(出所) 日銀大阪支店「百貨店免税売上(関西)」



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

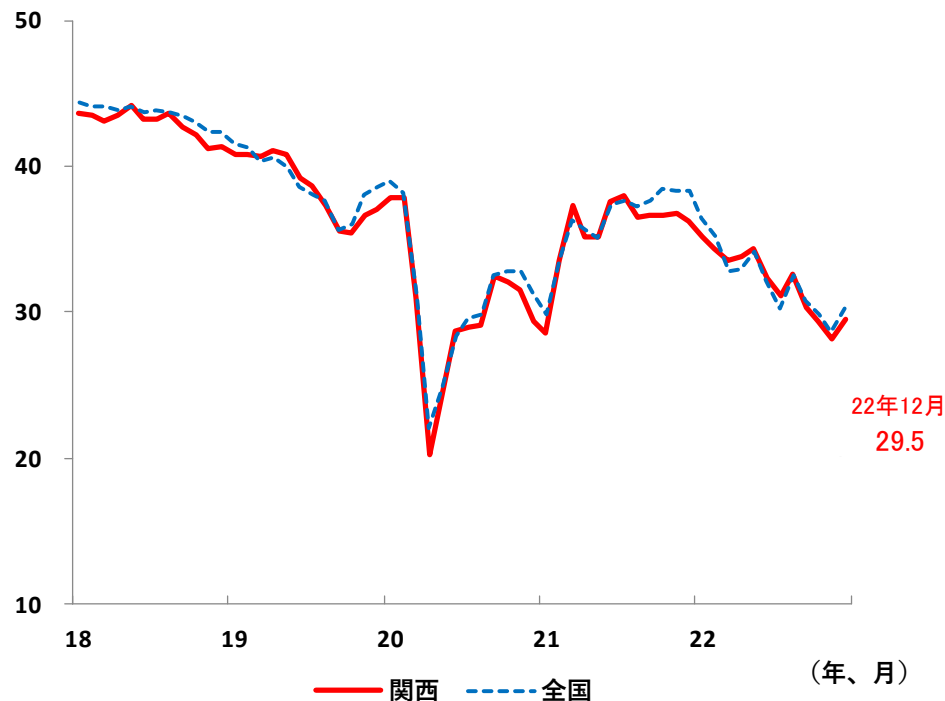


# マインド・景況感

12月の消費者態度指数(季節調整値)は29.5と4ヵ月ぶりに上昇した。

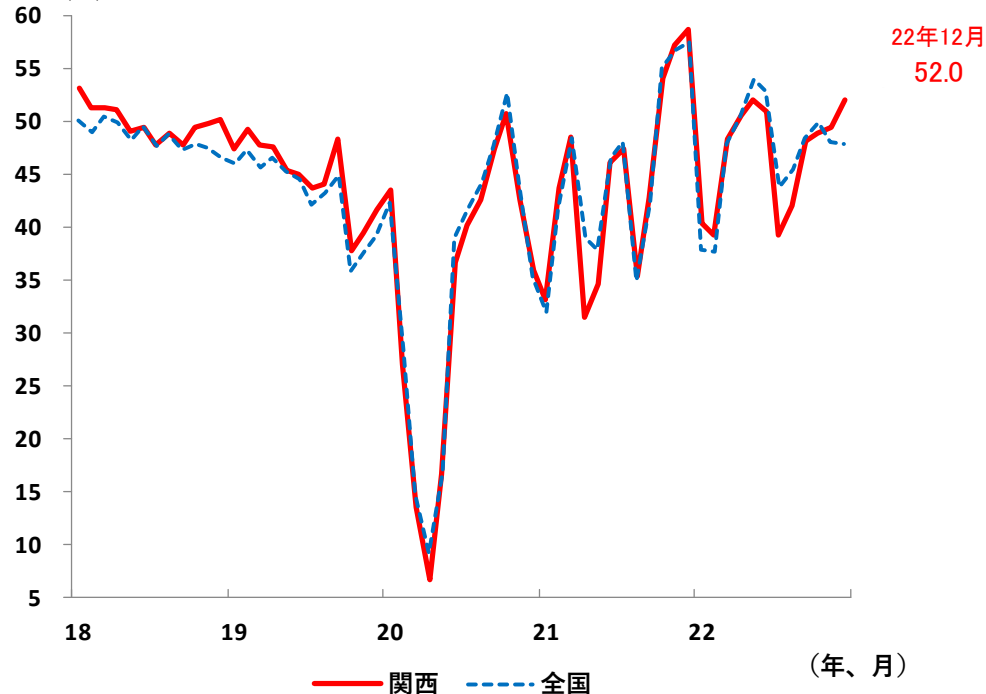
12月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、52.0と5ヵ月連続で上昇。全国旅行支援、入国規制の緩和等により景況感が改善した。

### 消費者態度指数



(注)関西の季節調整値はMURC試算  
(出所)内閣府「消費動向調査」

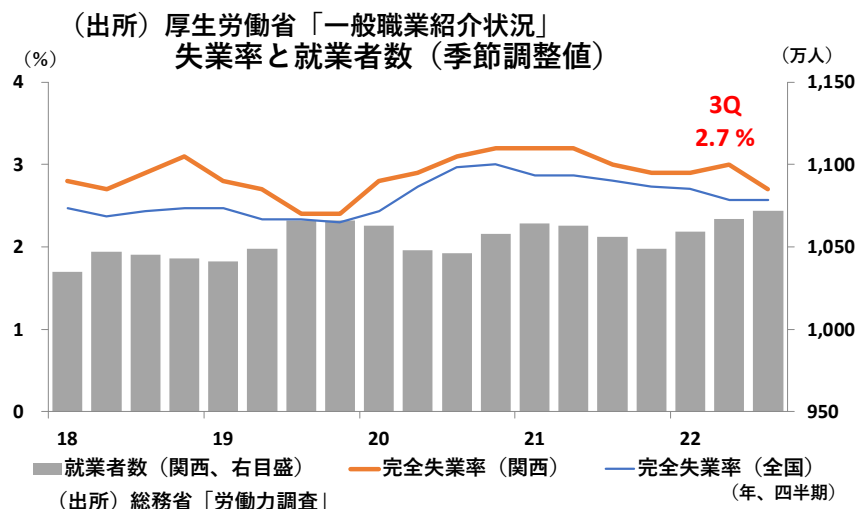
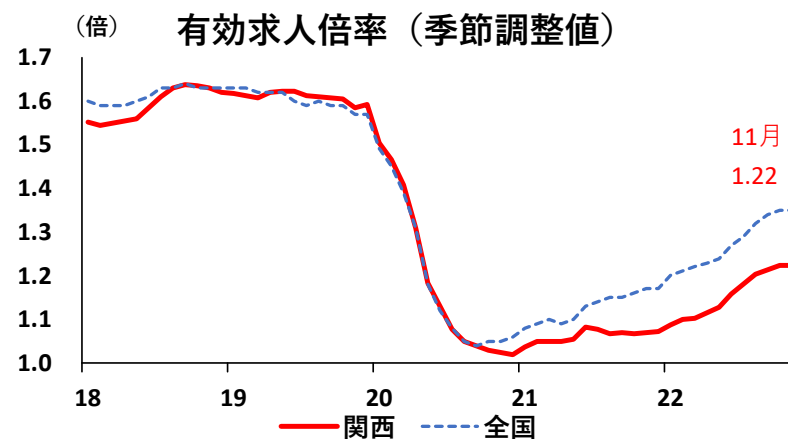
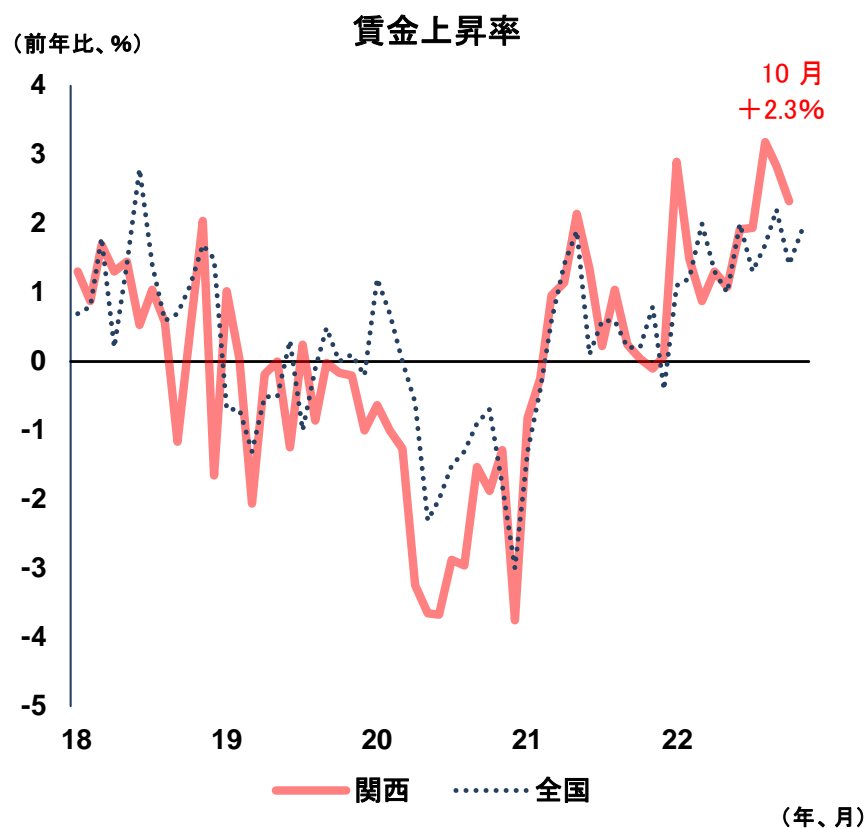
### 景気ウォッチャー調査 (現状判断)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

# 賃金・雇用

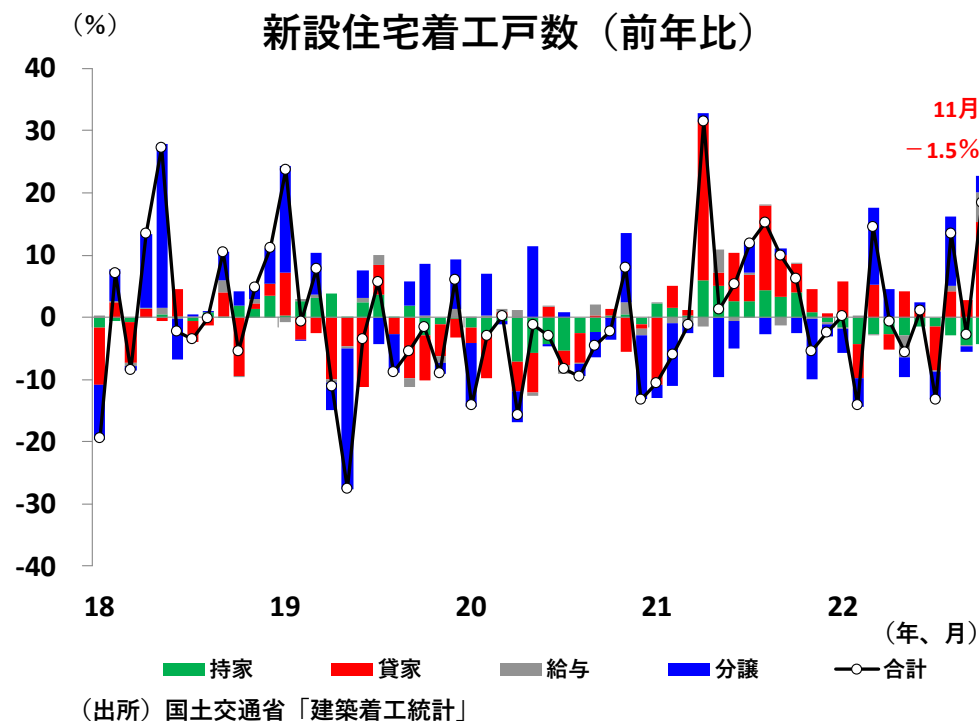
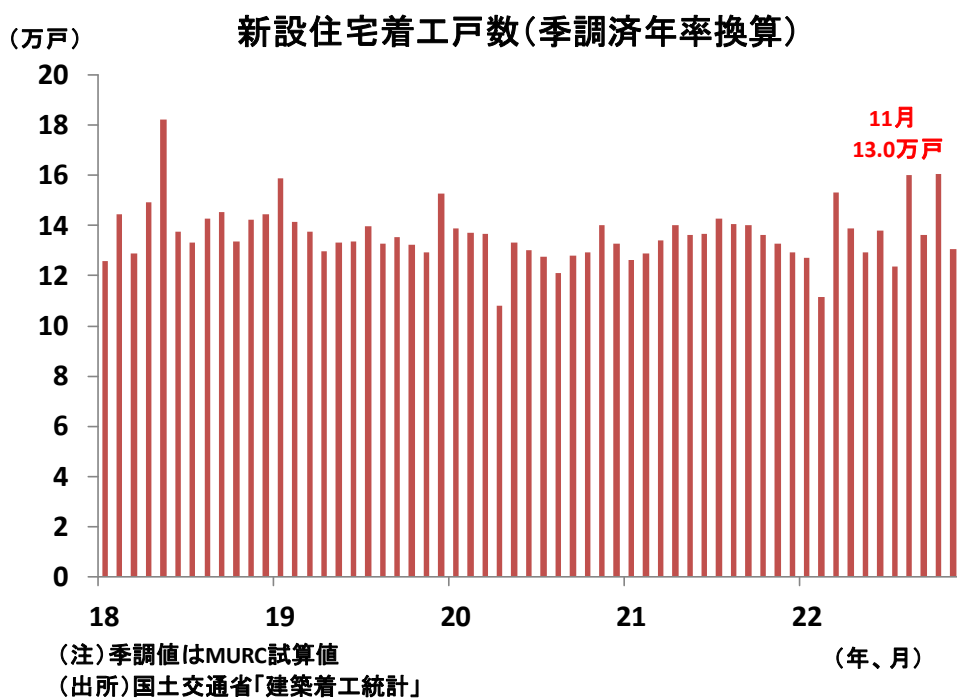
10月の名目賃金指数は前年比+2.3%と10カ月連続で増加。コロナ前の2019年比でも+0.5%と増加した。11月の有効求人倍率は1.22倍と前月と同水準。全国に比べ求職者数増加の度合いが高く、求人倍率は低めで推移している。22年7-9月期の失業率は2.7%と前期より低下、就業者数は増加した。



(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算  
(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

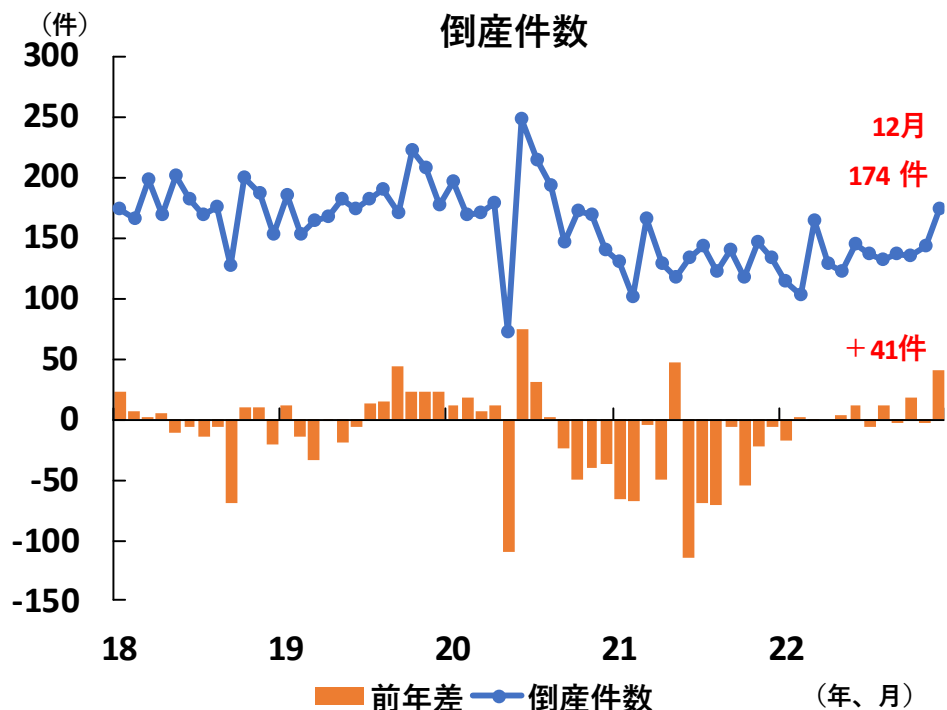
# 住宅投資

11月の住宅着工は季調・年率13.0万戸と2ヵ月ぶりに前月比で減少。均してみると横ばい圏で推移している。前年比では、貸家が増加する一方、持家、分譲が減少し、全体で-1.5%の減少となった。



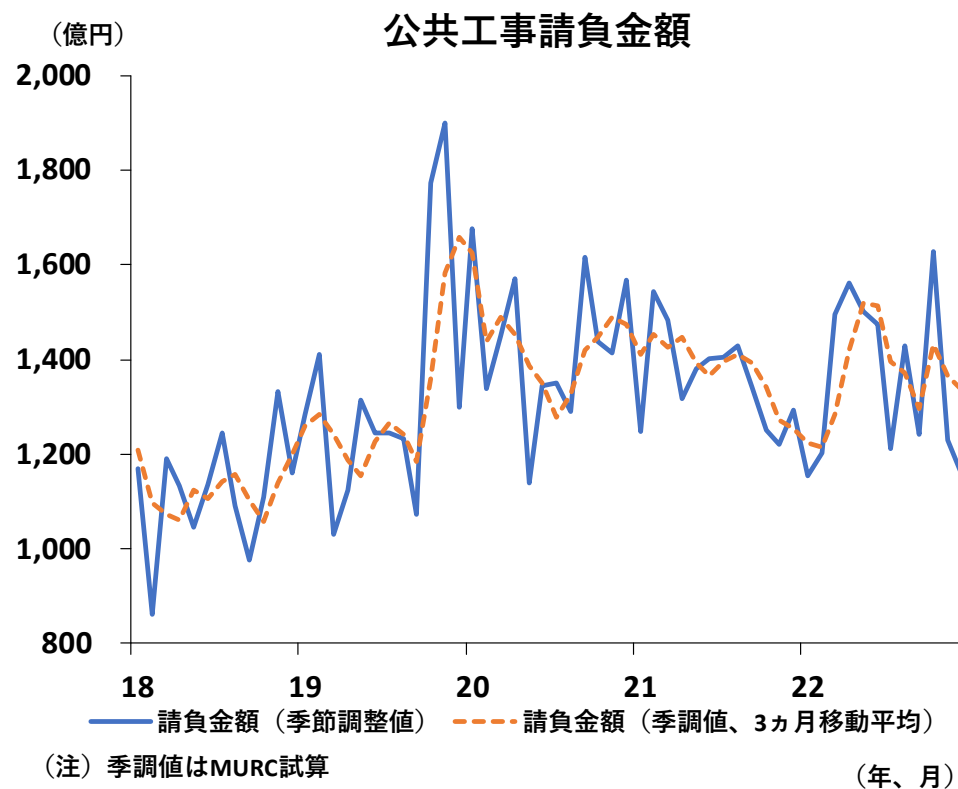
## 倒産

12月の倒産件数は174件と前年から41件増加。資金繰り支援策がとられたコロナ以降の水準としては高めの水準となった。



## 公共投資

12月の公共工事請負金額は、季節調整済前月比で2カ月連続で減少となり、弱含んでいる。



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 塚田 TEL:03-6733-1626 E-mail:[chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp)

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください